

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\* 65cm 屈折望遠鏡の主要観測装置 3 点が揃った。**

国立天文台には日本最大の 65cm 屈折望遠鏡がある。この望遠鏡は長焦点を生かし星の位置観測を行う直接撮像が行われて、また当時、日本最大の望遠鏡であったことから分光器による分光観測にも用いられていた。また、当時盛んに行われた掩蔽観測にも用いられ、そのための特種な接眼部が用意されていた。この 3 種類の観測装置を揃えることが出来た。

写真 1 が 65cm 屈折望遠鏡と写真 2 がそのドームである。



写真 1 65cm 屈折望遠鏡



写真 2 65cm 屈折望遠鏡ドーム

写真 3 が天体撮像に使われていた写真乾板取枠が付けられた撮像部である。65cm 反射望遠鏡の末期に土星の衛星の位置観測に用いられた三鷹光器製の新しい撮像部はまだ発見されていないが、歴史的にはこの写真の撮像装置の方が貴重である。

写真 4、写真 5 が 65cm 用プリズム分光器である。残念ながらプリズムは取り外され、他に転用されている。筆者の知る限りでは、この分光器のプリズムは清水実氏によって岡山の 91cm 反射望遠鏡用の Z 分光器に使用されたと聞いている。岡山の Z 分光器は、乗本氏が恒星のスペクトルが大量に撮影し、スペクトル型分類の研究に大活躍したものである。

写真 6 は、天文情報センタープレハブ倉庫で発見した 4 本のアイピースが付いた大きな望遠鏡の接眼部であるが、それがどの望遠鏡に使われたものか、使用目的も分からないでいた。あるとき、畑中氏と話していて、その 4 本のアイピースを持った接眼部は、65cm 望遠鏡で掩蔽観測をするためのもので、4 本のアイピースが焦点面の月の外周に沿って配置されたものであるということを伺い、大いに納得した。



写真1 65cm 屈折望遠鏡用撮像乾板取枠



写真4 65cm 屈折望遠鏡用分光器



写真5 65cm 屈折望遠鏡用分光器



写真6 65cm 屈折望遠鏡掩蔽観測用接眼部